

丹沢 四十八瀬川 勘七ノ沢

(報告) KM

◎山行期日：2020年8月2日(日)

◎メンバー：KM(L)、FJ

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、他方、感染防止と経済活動の両立を、とも言われる。新しい生活様式やウィズコロナが提唱され、各山岳団体からも感染防止のための登山の自粛や注意が出される中での近場、日帰り、少人数の山行でした。

7月、神奈川でも31日間ほとんど雨模様というそれ自体で記録的な天候でした。山行を計画するも延期、延期。8月1日、ようやく梅雨が明け、翌2日、八ヶ岳(1月)以来の山行となりました。FJさんとは、昨年来、沢登り等でご一緒しており丹沢でまだ遡行していない沢ということで「勘七ノ沢」に行くことにした。

8:00 渋沢駅に集合、8:08のバスに乗る、車内は7割ぐらいの乗車率、登山客である。先行したバスの乗車率も勘案するとコロナ以前とは比較にならないにしても、一定数の登山客はいるものだと少し気持ちも楽になる。

8:18大倉着、畑中の道を通り二俣までの西山林道を歩いたのはいつのことだったろうか。里から山に入り込んでいく雰囲気はどこか懐かしい感じがする。二俣では2組の家族、グループが休憩する中、入渓の身支度を整え出発。

沢筋の水流に足を踏み出し飛び石伝いに川原に行く、どこか足元が安定せずしっくりしない。コロナによる閉じ籠りからか、山行のブランクからか、或は年々の衰えからか、FJさんは、折々山に入っているとのことである。

7月は雨が続けていたこともあり水量は多い様である。小草平ノ沢との分岐。水量もあり、土砂の押し出し盛り上がりが目立っている。F1、F2そして大きな釜のあるF3まで難なく進み、F4、二段12メートルである。FJさんがリード、下段を右側から越え、残置ハーケンにビレーを取り、さらに上段のルンゼへと消えていく、途中、ザイルの流れが悪くなり下段のビレーを解除する、ザイルが流れ難なく抜けて行く。

F5、大滝15mである。ホールド、スタンス、残置ハーケンがしっかりしていることは記憶にあり、流れの左側を登る、右に寄ると水量が多く、水流で隠れているホールドを確かめながらの登りFJさんを迎える。沢の核心部はこれで終わるが、この上のゴルジュの中の滝も水量があり、その勢いで体が濡れて冷え込む感覚である。ザイルを仕舞い込み小滝を越えていく。

左から大きな崩壊のガレ沢が入り、ここからは、どの支流にエスケープして大倉尾根に出るかがポイントになる。水流に導かれ上流へとつめて行くと遠目に崩壊している様子が見える。斜面の状況を見ながら右尾根にエスケープする。雨続きで滑りやすい急斜面、藪を漕ぎながら大倉尾根を目指す。沢の最後のつめではいつも苦勞する。効率的で歩きやすい道筋を見極めながら、ひたすら上を目指すしかない。花立山荘上部の大倉尾根に出る。取りあえず花立山荘まで下る。

花立山荘の野外テーブルでFJさんと登攀用具等を整理していると、山荘のご主人に話しかけられる。

コロナの影響もあり、登山者は以前の半分程度、特に、家族連れの登山者が減っているとのこと、他方、外国人登山者はコロナとは関係なく多いとのことであった。ご主人が言うには、今、登ってくる人は準備もしっかりした真面目な登山者が多いとのことである。これはこれで良いことなのではと、何かしらしみじみ話していました。

また、勘七ノ沢をつめて花立山荘まで上がってくる人は、すっかり少なくなったとのことでした。そんな理由で歓迎して頂きました、1時間ほど話して大倉に下山する。半年振りの山行で、コロナ以前の日常の一つを取り戻した様な気がしました。FJさんお疲れ様でした。

《記録》

渋沢駅着 (8:08) —大倉 (9:18) —二俣 (10:34~54) —F1 (11:08) —F4下 (12:30) —ゴルジュ上 (13:30) —左ガレ沢 (13:58) —大倉尾根 (15:13) —花立山荘 (15:18~16:01) —見晴小屋 (17:08) —大倉 (17:50) —渋沢駅発 (18:26)

(了)